

## 三山木水取（高船）線に関する協議状況について（報告）

### 第 6 回バス交通等検証委員会（H28. 7. 12 開催）

#### ●奈良交通株式会社 三山木水取（高船）線の取り組みの方向性

- 各施設利用を考慮したダイヤの設定を検討する。
- 高船までの便数を見直す。
- 運賃の見直しを検討する。
- 広報紙などによる情報発信を行い、地域住民だけでなく来訪者等への利用を啓発する。

### 教育部との通学用バスに関する協議（H28. 7. 26）

- 三山木水取（高船）線と通学用バスは運行目的が異なるため、混同した議論はすべきではない。明確に分離し、それぞれの必要性を検証すべき。
  - 打田・高船地区の利便性を高めるために、三山木水取（高船）線の第 1 便（三山木駅 7:55 発）を高船まで延伸させることは、三山木駅から普賢寺小学校児童の利用時間帯、同志社大学便への車両の転用の関係から難しい。
- ⇒ 増便やダイヤ変更により、打田・高船地区の利便性を高めるには、三山木水取線の第 4 便（三山木駅 14:26 発）を高船まで延伸させることが現実的ではないか。

### 奈良交通への確認（H28. 8. 4）

- 第 4 便の延伸は可能か？
- ⇒ 高船から三山木駅に到着後、当該乗務員及び車両は、新田辺駅 15:12 発の同志社大学行きのバスとなる。
- ⇒ ダイヤ変更の際には、同志社大学と要調整。
- 第 4 便を延伸させた場合の運行経費は？
- ⇒ 乗務員数、車両数は現行と変更はないが、運行距離の延長のみによるランニングコストが増加する。